

2020年2月12日
九州旅客鉄道株式会社

2020年3月期第3四半期決算電話会議 主なQ&A

Q 第3四半期までの営業利益の進捗について、対計画比でどうか。

A 概ね計画どおりに進捗していると考えている。日韓関係悪化を受けて高速船事業が不調ではあるものの、鉄道運輸収入や駅ビル事業は対前年を超えて堅調に推移している。

Q 第3四半期における新幹線の運輸収入が前年より減少している要因について教えてほしい。

A 主な減少要因は、一昨年12月まで放映された大河ドラマ「西郷どん」の効果がなくなった影響だとみている。

Q 新型肺炎について、足下どのような影響が出ているのか教えてほしい。

A インバウンド関連で言えば、ホテル事業での影響が最も大きく、全体で1,000万円程度のキャンセルが出ているが、鉄道事業におけるJR九州レールパスの売上には目立った影響は出ていない。しかし、福岡～中国間の国際線が2月から大幅に運休する他、足元では近距離収入は堅調であるものの、九州内の都市間や関西方面などの中長距離収入の伸びが鈍化しており、日本人客の出控えの状況についても引き続き注視していく。

Q 来期の収入・費用の増減する要因について、見えているものがあれば教えてほしい。

A 鉄道事業については、曜日配列や今年秋の宮崎駅ビル開業など増収の要因は幾つかあるが、東京オリンピック・パラリンピックや新型肺炎は現時点では影響をはかりかねている。また、今年度開業した2つのホテル（日比谷、博多）が通年で収益に寄与する。一方、費用面では、人件費が引き続きやや減少するほか、2つのホテルの開業経費が剥落するが、宮崎や熊本駅ビルの開業経費の影響などを見極めたい。

Q 来年度の設備投資について、傾向を教えてください。

A 熊本や宮崎といった駅周辺開発工事が進捗するため、中期経営計画の成長投資を踏まえれば、一定の水準にはなるとは考えている。

以上